



## 2023年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年11月10日

上場会社名 シルバーエッグ・テクノロジー株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3961 URL <https://www.silveregg.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) トーマス・アクイナス・フォーリー  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) フォーリー 淳子 TEL 06 (6386) 1931  
 四半期報告書提出予定日 2023年11月10日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 有  
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年12月期第3四半期の業績 (2023年1月1日～2023年9月30日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	949	-	87	-	87	-	60	-
2022年12月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第3四半期	20.24	20.21
2022年12月期第3四半期	-	-

(注) 2022年12月期は連結業績を開示しておりましたが、連結子会社Silver Egg Technology Asia Limitedの重要性が乏しくなったことから、連結の範囲より除外し、2023年12月期第1四半期会計期間より非連結決算に移行いたしました。そのため、2022年12月期第3四半期の経営成績 (累計) 及び対前年同四半期増減率については記載していません。なお、Silver Egg Technology Asia Limitedは2023年7月7日に清算終了しております。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第3四半期	1,469	1,378	93.8
2022年12月期	1,463	1,318	90.1

(参考) 自己資本 2023年12月期第3四半期 1,378百万円 2022年12月期 1,318百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2023年12月期	-	0.00	-	-	-
2023年12月期 (予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

### 3. 2023年12月期の業績予想 (2023年1月1日～2023年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,285	-	50	-	50	-	34	-	11.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期3Q	2,966,942株	2022年12月期	2,966,942株
② 期末自己株式数	2023年12月期3Q	42株	2022年12月期	42株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期3Q	2,966,900株	2022年12月期3Q	2,966,900株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(セグメント情報等) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社は、2023年12月期第1四半期会計期間より非連結決算に移行したことから、前年同四半期累計期間との比較分析は行っておりません。

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、行動制限が緩和され経済活動の正常化が進む一方で、ウクライナ情勢の長期化や円安によるエネルギー価格や原材料の高騰など、当社を取り巻く多くの業界において、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社の事業が関連するBtoC-EC（消費者向け電子商取引）市場規模は、2022年は22.7兆円（前年比9.9%増）と引き続き拡大しております。

一方、EC化率は、BtoC-ECで9.1%（前年比0.4ポイント増）と引き続き増加傾向にあり、そのうち物販は13.9兆円（前年比5.4%増）とBtoC-EC市場全体の61.6%を占めております（出典：経済産業省、令和4年度デジタル取引環境整備事業（電子商取引に関する市場調査））。

また、2023年8月度の2人以上の世帯におけるネットショッピングを利用した世帯の割合は53.0%（前年比0.1ポイント減）と横ばいとなりました（出典：総務省、家計消費状況調査 ネットショッピングの状況について（2人以上の世帯）-2023年（令和5年）8月分結果）。

このような状況の中、当社は「AI（人工知能）クラウド型サービスで、あらゆるタッチポイントにおけるリアルタイム・パーソナライゼーションの実現」をミッションに掲げ、ECサイト運営企業、ウェブサービス企業向けに、AIを用いたマーケティング支援ツールである「アイジェント・エックス」「アイジェント・レコメンダー」「レコガゾウ」等の多様なプロダクトの提供と、成果につながるためのカスタマーサポートを積極的に行い、また当社製品と他社製品との連携による新サービスも展開し、細かな顧客満足度の向上と他社との差別化を同時に図ってまいりました。

営業活動につきましては、パーソナライゼーションにおける新たな試みとして、例えば、専用アプリを通じて自社ECサイトやSNSなどで店舗スタッフのオンライン接客を可能にする他社サービスと当社の「アイジェント・レコメンダー」を連携させることで、お客様一人ひとりの好みや関心に合うものをAIが選び出し、提案することを可能にするなど、意欲的な試みに挑戦しております。「ファッションEC売上高ランキングTOP120発表」（出典：日本ネット経済新聞Web版/2022年11月28日）において、上位15社のうち10社が「アイジェント・レコメンダー」を採用しております。こうした取り組みを重ねていくことにより、お客様が「自分のライフスタイルを豊かにする」と思える商品との出会いの促進をより深く進め、当社としての顧客満足度向上に努めていく所存です。

人材サービス業界においては、AIによるレコメンドと、ルールベースの細やかなフィルタリングを組み合わせることで、地域ごとの求人ランキング表示など、人材業界に最適化した多様なレコメンドが可能となり、これらの機能により求人サイトにおける応募数を大きく増加することができました。

これらにより、既存顧客向けの売上は堅調に推移いたしましたが、業種別では、アパレル業界が減少した一方、国内の物価高や海外経済の減速が景気の下押し要因となるも、新型コロナウイルス感染症拡大の影響からの社会経済活動の正常化が進み始め、引き続き人材関連の売上が伸長し、また、メディア関連やホビー・エンタメ関連ショッピングの利用拡大がプラスに影響しております。成長戦略として「レコメンデーションからパーソナライゼーションへ」掲げ、①Go Deep戦略、②柔軟なプラットフォーム、③顧客の付加価値向上を柱とし、営業・製品・新規事業・人材・M&Aの5つの戦略を積極的に推進してまいります。また、2022年度にリリースしたニューロープ社のファッションAIと連携した新サービス「ハッシュタグ・ジェネレーター」、「レコガゾウ」とそのオプションサービスの「POS連携機能」を統合した、新サービス「OMOレコメンド・ソリューション」によりコンテンツマーケティングのDX化支援を推進いたしました。

このような事業環境の下、当第3四半期累計期間の営業収益につきましては949,952千円となりました。また、当2023年12月期会計年度は、中期的な成長につなげるための人的投資を戦略的に行う計画を推し進めており、結果として、営業利益は87,764千円、経常利益は87,474千円、四半期純利益は60,058千円となりました。

なお、当社は、レコメンデーションサービス事業の単一セグメントであるため、セグメント情報に関連付けた記載を行っておりません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ5,945千円増加し、1,469,470千円となりました。主な内訳は、売掛金の減少6,690千円、前払費用の減少9,421千円、無形固定資産の減少16,511千円及び投資その他の資産の減少28,130千円があった一方で、現金及び預金の増加30,418千円、未収還付法人税等の増加38,495千円があったこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末の負債は、前事業年度末に比べ54,113千円減少し、90,536千円となりました。主な内訳は、未払法人税等の減少60,883千円があったこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ60,058千円増加し、1,378,934千円となりました。これは四半期純利益の計上による利益剰余金の増加60,058千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2023年2月10日に公表いたしました連結業績予想数値を据え置き個別業績予想としております。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,021,182	1,051,601
売掛金	202,495	195,805
前払費用	44,565	35,144
未収還付法人税等	—	38,495
その他	13	468
貸倒引当金	△113	△205
流動資産合計	1,268,143	1,321,309
固定資産		
有形固定資産	22,345	19,766
無形固定資産	94,231	77,720
投資その他の資産		
その他	79,155	51,322
貸倒引当金	△350	△648
投資その他の資産合計	78,805	50,674
固定資産合計	195,382	148,160
資産合計	1,463,525	1,469,470
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	55,846	56,213
未払費用	8,767	7,197
未払法人税等	60,883	—
未払消費税等	4,524	13,976
賞与引当金	7,150	—
その他	7,478	13,149
流動負債合計	144,650	90,536
負債合計	144,650	90,536
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	285,272	285,272
資本剰余金	270,035	270,035
利益剰余金	763,702	823,760
自己株式	△134	△134
株主資本合計	1,318,875	1,378,934
純資産合計	1,318,875	1,378,934
負債純資産合計	1,463,525	1,469,470

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
営業収益	949,952
営業費用	862,188
営業利益	87,764
営業外収益	
受取利息	6
その他	1
営業外収益合計	7
営業外費用	
貸倒引当金繰入額	298
営業外費用合計	298
経常利益	87,474
税引前四半期純利益	87,474
法人税、住民税及び事業税	533
法人税等調整額	26,881
法人税等合計	27,415
四半期純利益	60,058

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、レコメンデーションサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。